

## 千住・歯にかむ会

発足年度 平成10年度      メンバー数      26名

平成12年度プログラム

グループの特徴・目指すこと

歯周病予防教室の同窓会から生まれました。「継続は8020」を合言葉に、定期的に学習会や情報交換を行ない、家族へ友人にと仲間とともに地域で「歯の健康づくり（8020運動）」をめざしています。

活動日及び主な内容（平成12年度）

（\*いづれも午後1時30分から4時まで）

6月7日（水）	9月6日（水）	12月6日（水）	3月7日（水）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のプランづくり</li> <li>・学習会</li> <li>心のエッセンス</li> <li>・自分の歯の健康目標づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会</li> <li>軽い嚥下障害の見つけ方</li> <li>・グループワーク</li> <li>・情報交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵手紙にチャレンジ</li> <li>・お楽しみ会</li> <li>プレゼント交換</li> <li>8020クイズ</li> <li>・1分スピーチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ講座</li> <li>世界の歯科保健状況</li> <li>・歯科医を囲んで座談会</li> <li>・自分の歯の健康目標を振り返って</li> </ul>

<こんな活動に参加しました。>

- |                                     |               |
|-------------------------------------|---------------|
| 1. 住区健康フェスティバル「歯の健康いろ歯かるた」を紹介・他     | 3名参加          |
| 2. あだち健康フォーラム発表「家族で歯、ハ、ハ・生涯現役」      | 代表1名<br>応援団7名 |
| 3. 地域健康づくり交流会参加      歯にかむ会スタンプラリー開設 | 有志7名          |
| 4. 「みんなで創る21世紀の健康あだち」講演会参加          | 10名           |
| 5. 第22回アジア太平洋歯科大会公開シンポジウム「脳を科学する」参加 | 4名            |
| 6. 歯周病予防教室「8020フォーラム」シンポジスト         | 1名            |

○平成12年度の活動の様子

ミレニアム まず何よりも 歯の健康が今年のテーマでした。

このテーマに沿って活動を「地域の健康づくり」に参加してみることから始めました。

このことで、私達のグループの名前も少しめだち始め、周りの人にも理解と協力をして

いただきました。いい体験がたくさんでき、新たな課題もうまれましたが、輪が広がって、楽しみながら仲間と一緒に活動です。 「元気な笑顔！歯にかむ会」は今が旬！！

## 参考資料 9

### 市民参加による「健康おおつ21」策定に向けて

滋賀県大津市健康管理課 保健婦 西本 美和

はじめに

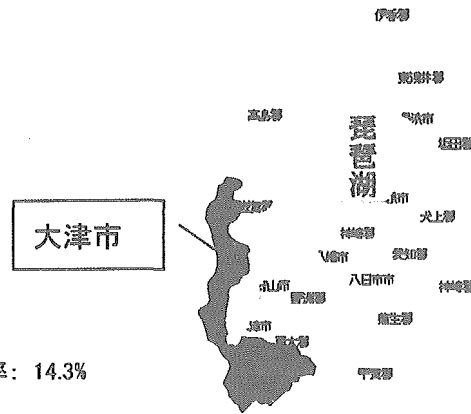
平成13年度、大津市では(仮称)「健康おおつ 21 プラン」を策定しています。このプランでは、大津らしい健康づくりを目指すために、従来の行政主導の計画づくりではなく、市民や関係機関・団体参加型の広い視野からの計画策定を進めています。平成13年度の計画策定、平成12年度は策定準備期間として、7つのワーキンググループからなる3つのチームで活動してきました。

#### 滋賀県大津市の概要

琵琶湖の南西に位置し、東西 20.6km、南北 45.6km という細長い地形をし、大阪京都のベットタウンとして発展してきました。平成12年4月1日現在の市の概況は次のとおり

人口: 289,601人      世帯数: 105,105世帯  
 面積: 302.34km<sup>2</sup>      市民平均年齢: 38.9歳  
 小学校区数: 33      自治会数: 617  
 人口増加率: 0.76%(自然増加率: 0.37%)

出生率: 9.2(対千人) 死亡率: 5.5(対千人) 高齢者人口比率: 14.3%



#### 「(仮称)健康おおつ21プラン」の概要

大津市では図1にあるような7つの分野で、計画策定のための現状把握および調査研究をワーキンググループ(チーム)を作ってスタートしています。

○思春期保健チーム: 健やか親子 21 の中の思春期分野のグループとして作られました。

メンバーは教育委員会、小中高の養護教諭、PTA、産婦人科医師、婦人会館、警察の補導担当者、健康管理課保健婦です。並行して市内中学校と連携したリプロ教育やグループフォーカスインタビュー等をしながら、現状把握をしています。

○歯科保健チーム: 母子分野・成人老人分野と2つのチームがありますが、実質はひとつのグループとして活動しています。

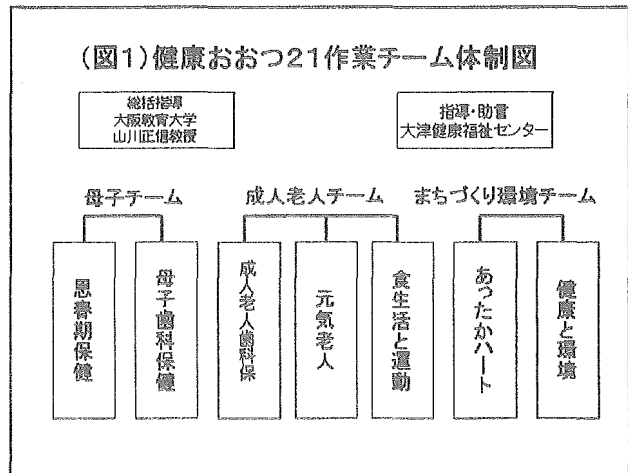
メンバーは歯科医師、歯科衛生士、薬剤師(薬局を歯科保健の情報発信基地にという構想から)、児童家庭課保健婦(主に保育園の主管課に所属する保健婦)です。

○元気老人チーム: チーム名からすると老人のことを考えるチームのようですが、このチームでは、これから元気な老人をどんどん増やしていこう! そのために成人層にアタックしよう! というチームです。メンバーは高齢福祉・介護課保健婦、大津市社協職員、健康管理課保健婦。企業に退職者教育や社員教育についてインタビューし、第二の人生がスタートする時に、どのようなことがあれば、10年後の大津に元気老人が増えるのかを考えています。60歳代の市民1000人にアンケートを行いました。(多くの方の生きがいは「健康」でした)

○食生活と運動チーム: このチームは、まさに健康日本 21 の中の大きな柱、生活習慣病対策の重要な2つの分野である「食生活」「運動」について考えるチームです。メンバーは、健康推進員、栄養士、運動指導士、保健婦です。30~40歳代の男性に健康づくりの聞き取り調査・市内店舗・企業まわりなどをしています。

○あたたかハートチーム: 障害者も健常者も誰もが、あたたかい気持ちを持ち、生き生きと暮らしていける大津を考えるチームです。メンバーは、障害をもつ市民、ボランティア、大学生、青年会議所、大津市社協、障害

(図1)健康おおつ21作業チーム体制図



福祉課、健康管理課保健婦です。

- 健康と環境チーム:健康を考える時に欠かせない環境づくりについて考えています。大津市ではすでに環境基本計画が作られており、その中の柱のひとつに健康があがっています。しかし、具体的にはまだまだこれからで、環境企画課と健康管理課保健婦が一緒になって、健康と環境について考えています。また環境部では環境サポーターという市民ボランティア活動も立ち上げていて、そこに参加しながら、環境と健康について話し合いを重ねています。

### 市民参加型ワークショップ

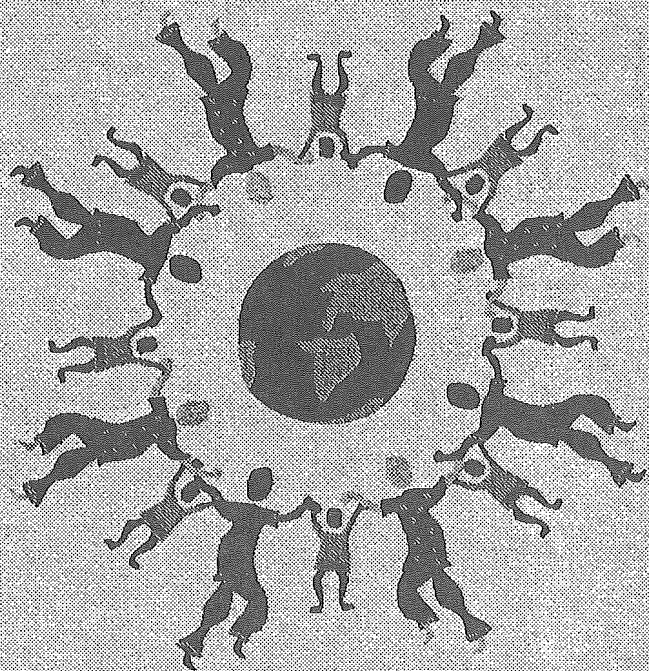
『(仮称)健康おおつ21プラン』では、計画策定のプロセスを大切に、各作業部会の内容は、できるだけワークショップ形式で自由に意見が述べられるようにしてきました。ここでは、あつたかハートチームの取り組みの中で感じられた、市民参加のメリット・デメリットについて考えました。

- 視野の拡大:今回のワークショップでは、車椅子の方や、長年ボランティアとして活躍された方も参加して下さいました。そのために、出てくる意見がとても身近で具体的でした。また出された意見を行政が取り組むこと、市民として自分たちが取り組むこと、地域や組織・団体などが取り組むことに分類することで、単なる行政への要望に終わるのではなく、自分たちもこれなら取り組んでいけるという意見を出し合えました。行政の立場で仕事をしてきましたが、市民として自分たちに何ができるのかということとはあまり考えてこなかったことに気付きました。
- ワークショップの波及効果:一緒にワークショップに参加した女子大生が、「私は10年後の大津がどうなるか、なんて考えたこともなかったけど、ワークショップに参加して、10年後の大津がどうなっているといいかな、って考えるようになり、先日テレビを見ている時に思いついたことがあります。最近のドラマでは障害者の方を主人公にしたものもあるけれど、どうも特別な世界というか、ブラウン管の中の世界という感じで、自分たちの生活とは程遠いように感じている。それよりもエキストラにもっと車椅子の人や障害のある人が、普通に通行人として出演するようになれば、その風景が自分たちの日常の風景になっていくんじゃないかと思いました。」また、「ワークショップに参加していることを友達に話していたら、今度は友達が、こんなテレビやってたけど見た?とか、こんなことやるらしいよ、といった情報を私に教えてくれるようになって、自分も変わったように思うけれど、自分の周りも変わっているように感じています。」と話してくれました。この彼女の言葉のように、自分が変わり周りも変わっていく。それもこう変わりなさいということではなく、自分たちで考え、伝え合い、変化していく。こういった人と人のネットワークの広がりがメリットだと感じました。
- メンバーの偏り:市民参加で最も気になったのが、参加メンバーの偏りでした。今回はこちらがこの人は!と思う人に相談し、そこからその人の知っている人で、この趣旨を理解し一緒に考えてくれる人という感じで、メンバーを集めました。ですから、広く公募したわけではありません。この点が、これでいいのだろうか?と不安だった点でした。ですから、市民参加を考えた時、策定段階から市民参加ということと合わせて、量的調査も行うなかで、全体をみながら進めていくことが重要だと思いました。

### (関連事業)

- 健康づくり実態調査
- ウォーキング自主グループ育成事業
- 健康づくり応援団(健康づくり協力店舗)
- 健康づくり計画と市民参加を考える会

(仮称) 健康おおつ21  
市民公開シンポジウム



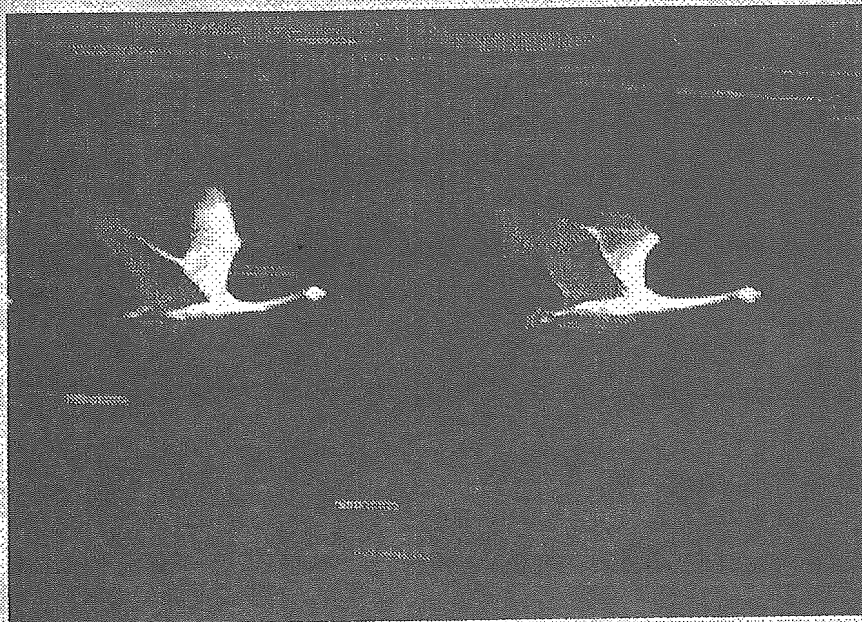
平成13年3月25日(日)

# 目次

はじめに	1
「(仮称)健康おおつ21プランについて」	3
基調講演「市民が主体的に取り組む健康づくり」 大阪教育大学 健康科学講座・人間生態学教室 教授 山川 正信 先生	15
調査報告「健康づくり実態調査の結果について」 滋賀医科大学保健福祉医学講座 研究員 早川 岳人 先生	19
作業部会・シンポジウム	25
シンポジウムのテーマ・シンポジスト	26
思春期保健チーム	27
歯科保健チーム (母子・成人老人)	33
元気老人チーム	41
食生活と運動チーム	45
あったかハートチーム	51
健康と環境チーム	63
健康いきいき21ー健康滋賀推進プランー	73
「(仮称)健康おおつ21プラン」作業部会メンバー	83
資料	
「歩くことを継続するためには、どんな環境整備や条件が必要？」 大津市健康推進員連絡協議会のみなさんと考えた意見	84

# 参加型社会における市民と行政の パートナーシップの確立に向けて

—市民の力を引き出すまちづくり—



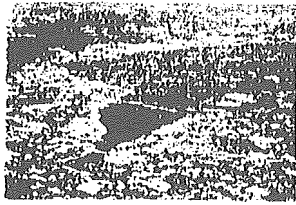
平成13年3月

パートナーシップ推進プロジェクトチーム

参加型社会における市民と行政の  
パートナーシップの確立に向けて  
－市民の力を引き出すまちづくり－

目 次

－はじめに－	2
1. 本市における市民参加の現状と課題	3
(1) 本市の市民参加の現状	3
(2) 本市の市民参加の課題	5
(3) 市民参加型社会における行政の役割	5
2. 市民活動について	7
(1) 市民活動の意義	7
(2) 市民活動の促進に向けての基本的な考え方	8
3. パートナーシップについて	10
(1) 市民と行政の新しいパートナーシップ	10
(2) パートナーシップ、協働の課題	11
4. 市民参加型まちづくりを進めるために	13
(1) 市民力の向上に向けて	13
(2) まちづくり市民活動の定着に向けて	15
パートナーシップ推進プロジェクトチーム活動経過	18
パートナーシップ推進プロジェクトチーム委員名簿	20



# 大津まちづくりかわら版

大津まちづくりかわら版  
祝 創刊号!

発行：大津市

Topic

## ◆ 大津市市民参加推進研究会 開催される ◆

～ 「ともに生き ともに創る ふるさと都市大津」のまちづくりを考える! ～

### 大津まちづくりかわら版発行のお知らせ

大津市では、4月からスタートした新総合計画で、「市民と行政のパートナーシップを確立する」を「まちづくりの姿勢」の一つに掲げ、「ふるさと都市大津」の実現を目指しています。

大津市では、福祉、環境保全、国際交流などの幅広い分野で、数多くの市民の皆さんがまちづくりに参画し、自己実現と社会貢献を果たしている動きがますます活発化しています。

また、市民の生活様式や価値観の多様化、社会経済の構造的な変化が大きく進む中で、まちづくりや行政に対する市民ニーズも確実に多様化してきています。

今回、大津市では、市民と行政のパートナーシップによる協働のまちづくりを進めるため、「市民参加推進研究会」を設置し、大津市にふさわしい新たな市民参加の仕組みづくりについて研究することになりました。

そこで、研究会での話し合いの過程を市民の皆様にも広くお知らせするために、「大津まちづくりかわら版」を発行することになりました。本号では今回の取組みの概要と第1回市民参加推進研究会の様子をお知らせいたします。

### 「大津市にふさわしい

### 新しい市民参加の仕組みづくりを」

(山田市長)



市民自治の確立を基本理念に掲げ、市民と共に汗を流してまちづくりを進めてきた結果、本市では環境保全をはじめ、各分野にわたって市民の自主的なまちづくり活動が定着してきています。

これまでの成果を踏まえ、市民協働の絆を原動力に、市民の手による市民が主役のまちづくりを一層推進していくため、今回、市民参加推進研究会を設置し、大津にふさわしい新たな市民参加の仕組みづくりを共に考えていただくことになりました。忌憚のないご意見で、21世紀の大津のまちづくりのテーマである「ともに生き ともに創る ふるさと都市大津」の実現のため、お力添えをお願いしたい。(第1回研究会での挨拶の要約)

### 今回の取組みの趣旨

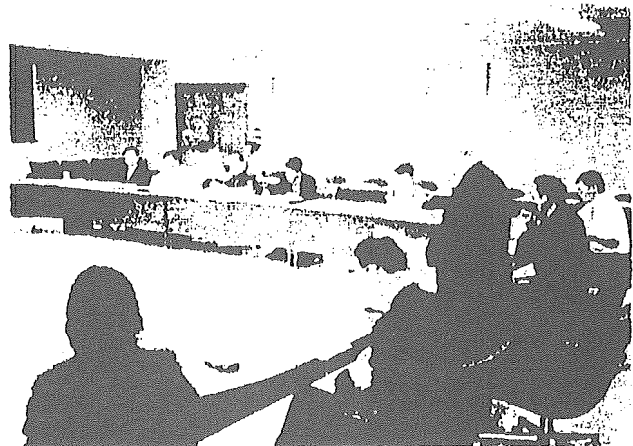
市民参加推進研究会では、本年から2カ年にわたって新たな市民参加の仕組みづくりを研究し、提言を平成14年秋にとりまとめて市長に報告する予定です。



### 次の方々に委員をお願いしています

【研究会】(12名：敬称略、順不同)

- ・ 乾 亨 (立命館大学産業社会学部)
- ・ 岩内 次郎 (大津市自治連合会)
- ・ 越後 千代 (国際交流ボランティア)
- ・ 金城 武志 (町家にあるアート)
- ・ 中井 豊子 (町のオアシス)
- ・ 西本 育子 (市民劇団「湖人の会」)
- ・ 日花 京子 (大津市ボランティアセンター)
- ・ 増田 喜代司 (特定非営利活動法人 大津倶楽部)
- ・ 森井 俊 (仮称) おおつ環境フォーラム準備会調整委員)
- ・ 森川 稔 (大津の町家を考える会)
- ・ 山本 勝麿 (大津市PTA 連合会)
- ・ 欠 席 (大津地区労働者福祉協議会)





# 第1回 市民参加推進研究会 会議ルポ (7月26日(木))

## まずは研究会の流れと検討項目を確認

第1回研究会では、まず、委員の皆さんの自己紹介を兼ねて、それぞれの活動内容の紹介、また活動を通じての市民参加に対する考えや意見等を述べて頂きました。

各委員の意見から市民の皆さんの活発な活動の様子や関心の高さが伺えました。

会議は、第2回以降、ワークショップなどの方法も交えながら、本格的に検討していく予定です。

○ 当日の流れ ○

1. 委員の委嘱 (委嘱状交付)
2. 委員の紹介
3. 市長挨拶
4. 設置要綱について (座長、副座長の選出)
5. 市民参加推進研究会の運営等について
6. 意見交換
7. 今後のスケジュールについて

○ 主な検討項目 ○

大津市のこれまでの自治活動や市民参加の一定の成果を踏まえ、今後の様々な参加手法のあり方やより幅広い市民参加のあり方など、次のような項目についての検討を予定しています。

- 市民と行政の役割分担・協働のあり方
- 企画立案段階からの参加の仕組みづくり
- 市民によるまちづくり活動の活性化方策
- 市民活動の拠点機能の検討
- 情報提供の推進

## 座長・副座長選出

委員の互選によって、研究会座長に乾 亨氏、副座長に森川 稔氏が選出されました。



乾座長



森川副座長

## 「市民参加のしくみ、考え方、状況づくりを」

(まごの 乾座長)

最後に、乾座長から今回の議論のまとめとして、以下のキーワードが提示され、各委員はふるさと都市大津の新しいまちづくりを目指して、市民参加の重要性と可能性への想いをより一層強くし、閉会となりました。

## そして会議は意見交換へ！

事務局からの説明を受けた後、参加者全員による意見交換が行われ様々な視点から数多くの意見が出されました。

- 住民が主権を持てるまちづくりを考えたい
- 市民が持っているパワーと文化を活かせる参加を考えたい
- 公共性・New Public と市民参加との関わりを考えたい
- 市民参加に向けて、より具体的な方法と対応策を考えたい
- 新旧住民をまとめ、融合させるような市民参加のあり方を考えたい
- 市民参加による子供連の育成コーディネートを考えてみたい
- より具体的な市民参加の方法とあるべき姿を考えたい

## ○ 市民参加を考える上でのキーワード ○

- 「琵琶湖と環境」
- 「教育・子育て」
- 「地域まちづくり」
- 「お金と行政の役割」
- 「琵琶湖・まちなか・商店街」
- 「ネットワークセンター」
- 「New Public」
- 「身近なところでの市民参加」
- 「新旧住民相互のうまい付き合い方」
- 「企業市民と生業を営む市民としての存在」

## 第2回 市民参加推進研究会の開催は…

とき 9月27日(木) 午後5時から  
ところ 大津市ふれあいプラザ大会議室  
(明日都浜大津5F)

一般傍聴者 大歓迎！

▽▲ お問い合わせは ▲▽

大津市企画部企画政策課まちづくり推進室  
TEL 0777528-2701  
FAX 0777523-0460  
Eメール: otsu002@ax.cable-net.ne.jp

## 第6節 コミュニティ組織の変遷と課題—大津市の現場から

### 1 大津市におけるコミュニティ組織の変遷

大津市は、古くは大津京の時代から琵琶湖、瀬田川の水運によって拓け、諸国の物資が集散する港町として賑わってきた。

また、世界文化遺産にも登録された比叡山延暦寺をはじめ、石山寺、三井寺、日吉大社などの数多くの社寺・仏閣が点在し、琵琶湖と緑の山並みの風格あるたたずまいは近江八景に描かれ、水と緑と文化の町として発展し、今では人口29万人を擁するまでになった。

こうした優れた地域文化を持つ大津市のコミュニティ組織については、昭和30年に、「自らのまちは自らがつくる」の趣旨のもと、地域住民の自主的な社会活動の役割を担う組織として設立された自治会が、まちづくりの主体を担ってきた。

一方、地方分権時代の到来とともに、全国的なボランティア活動の活発化やNPO法の施行に見られるように、大津市においても新たなコミュニティが、まちづくりに大きな役割を果たす時代を迎えていることから、コミュニティ組織の状況を踏まえ、今後の課題を検証してみる。

#### (1) 自治会・町内会の状況

市民参加型まちづくりの気運が年々高まる中、大津市では、各地域において個性や活力に満ちたまちづくりをめざし、市民相互の親睦を軸に共通課題解決の模索と実践、地道な活動が多種多様な形で展開されてきた。その先導的な役割を担っていたのが自治会であった。

現在では、自治会組織として625の単位自治会を基本に31学区自治連合会で市自治連合会が組織されており、これらの市民の自主的な地域活動を支援する市民センターが31学区に整備され、地域福祉、防犯、防災、人権学習、青少年健全育成等各種活動推進のための拠点となっている。

また、各自治会の活動拠点となる自治会館の保有率は69%となっている。この高い保有率の要因としては、ふれあいの家設置事業費補助事業の推進と、平成3年の地方自治法の改正により、自治会が法人格を取得できる権限が付与されたこと（認可地縁団体）を契機とする自治会の共有財産の保全への関心の高まりがある。

なお、自治会加入率は低下傾向にあるものの、開発地において人口増加に自治会の組織設立が追いつかない等の中でも、自治会数は増えており、自治会加入世帯も80,982世帯となった。

大津市の自治会組織が今日まで発展してきた要因としては、地域に住む人々が火災などの災害時をはじめ、日常生活における問題に対して、力を合わせて取り組むとともに、親睦・交流を通じて連帯感を培い、住みよい地域社会を作ろうという意識が高かったことにある。

このことは、「琵琶湖を美しくする運動」など、自治会組織を中心とした各種の市民活動

が継続・発展していることに表れている。

● 学区自治連合会を中心とする地域組織

- |               |                |                |
|---------------|----------------|----------------|
| ○子ども会育成連絡協議会  | ○地域婦人会         | ○体育振興会         |
| ○老人クラブ連合会     | ○社会福祉協議会       | ○民生委員児童委員連絡協議会 |
| ○人権・生涯学習推進協議会 | ○交通安全協会        | ○補導委員連絡協議会     |
| ○青少年育成学区民会議   | ○母子福祉のぞみ会      | ○遺族会           |
| ○消防分団         | ○文化協会          | ○公民館利用者団体協議会 等 |
| ○スポーツ少年団      | ○まちづくり協議会(委員会) |                |

特徴的な市民活動

1

自らのまちを美しくするための美化運動

琵琶湖を美しくする運動実践本部(S47)、公園管理・河川愛護団体による美化活動

2

ごみ問題への取り組み

ごみ減量と資源再利用推進会議(S56)による分別収集と資源再利用運動の推進

3

明るく住みよいまちづくりの推進

「ふるさと都市大津」市民運動推進会議(S57)によるまちづくり活動(わがまちづくり市民会議の開催、花づくり活動推進事業)

(2) 晴嵐モデルコミュニティ地区での取り組み

大津市の南部に位置する晴嵐学区は、JR石山駅を中心に大規模事業所や商店街、これを取り巻く住宅地域、さらには農業・漁業地域もあるという複合的なまちであり、人々の郷土意識もそれぞれの受け取り方に違いがあった。

そうした中で、昭和46年に自治省のモデルコミュニティ地区に指定されたのをきっかけに、新しい型の郷土意識を求めて、自治会をはじめPTA、社会福祉協議会、商店街などの学区内団体と学区内事業所等をメンバーとする晴嵐コミュニティ推進委員会が設立された。

委員会では、設立当初にコミュニティテーマが決められ、このテーマを理念に、コミュニティ施設整備計画(晴嵐会館)の策定や会館建設後の運営をはじめ、晴嵐まつり、ふれあいマラソンなどのイベント開催や、地域の環境、安全、福祉対策についても積極的に取り組まれており、現在でもその活動は引き継がれ、晴嵐学区のコミュニティ活動の発展に

大きく寄与した。

また、この委員会のコミュニティ活動が、地域づくりへの市民参加を促す目的で、大津市の各学区において設立が進んでいる、「まちづくり協議会（委員会）」（学区内の各種団体・グループ・事業所・個人等で構成）の先駆けとなったと言える。

● 晴嵐コミュニティ推進委員会コミュニティテーマ

私達の住みよい街づくりのために、

- 1、 みんなで豊かな心を育てましょう
- 1、 みんなで心のつながりをもちましょう
- 1、 みんなで快適な環境をつくりましょう

### （3） テーマ別市民活動組織の状況

テーマ別市民活動は、一部で行政や企業の補完的な役割を果たしながらも、市民活動ならではの地域課題の発見、解決手法の追求が行われている。また、これまで市民活動に縁が無かった多くの人の参加を誘引し、活発な活動が展開され、自己実現したい人々にとって、これまでとは違った生き方を模索し、新たな価値観を実現する場としても機能しはじめている。

大津市においては、従来から社会福祉協議会にあるボランティアセンターを起点に、福祉分野のボランティア活動を中心に活発な活動が展開されてきた。平成13年6月現在、ボランティアセンター登録者は、個人286名、グループ109団体となっている。最近では、環境、教育に対するボランティアへのニーズが高くなっている。

また、「特定非営利活動促進法」に基づくNPO法人の認証数は、平成13年11月現在、17団体となっている。活動分野では、福祉・介護関係が多い。

このような中、平成13年4月からスタートした大津市総合計画に掲げる市民と行政のパートナーシップによるまちづくりを進めるため、大津市市民参加推進研究会（委員12名）を同年7月に設置し、市民と行政の役割分担・協働のあり方等、新たな市民参加の仕組みづくりについて、検討・研究を行っている。

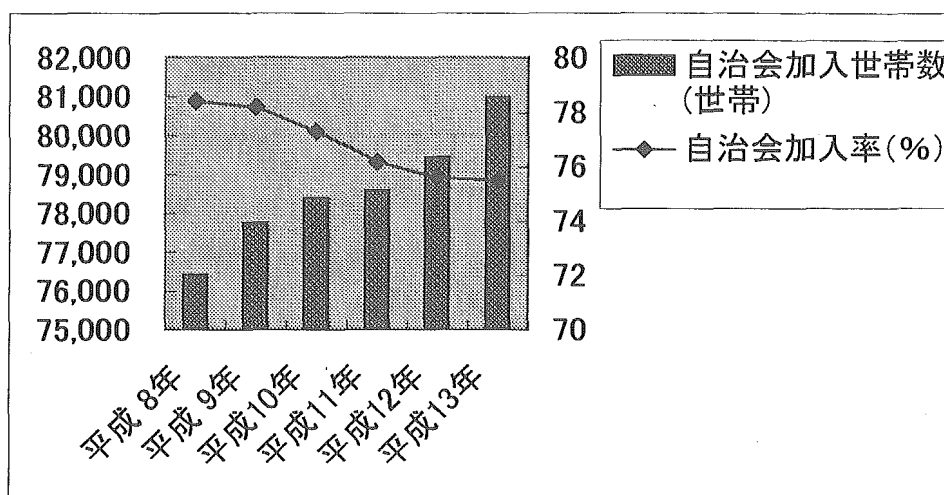
## 2 大津市におけるコミュニティ組織の課題

### （1） 自治会・町内会の課題

大津市では、市民の生活様式や価値観の変化に伴う市民意識の多様化、連携意識・自治意識の低下の中で、自治会に加入しない、自治会を脱退する、自治会が結成されないなどの自治会離れが進行しており、自治会組織への加入率（平成13年4月現在、75.5%）は低下傾向にある。

また、自治会の規模についても、自治会が地域特性、生活環境等により規模が一定しておらず、活動内容、運営面等から適正規模での再編成が必要となってきた。

このようなことから、これからの超高齢社会の到来、大規模災害の発生や事故・犯罪の増加等考えると憂慮すべき状況であり、誰もが安心して暮らせる地域社会の構築を図るためには、自治会加入促進をはじめとする自治会活動の活性化対策の推進と、「自分たちのまちは自分たちで作る」という自治意識の醸成が、地域連携感に支えられたコミュニティづくりを進めるうえでの大きな課題となる。



● 加入率低下の考えられる要因

- 自治会が無くても生活に支障がない。
- 役員になりたくない。
- 会費負担、「広報おおつ」等の配布・バザー品回収などの負担がイヤ。
- 封建的で長老支配になっている。
- 新旧住民の融和が図れない。

(2) テーマ別市民活動組織の課題

大津市におけるボランティア・NPOなどのテーマ別市民活動組織においても、活動資金、活動拠点、情報の不足などが、他都市同様、活動上の課題となっている。

さらに、これらの団体の活動を支援するための拠点施設が県レベル（淡海ネットワークセンター）で設置されているものの、市内のグループのネットワーク化が十分図られているとは言えず、その上、市民・事業者・行政が協働して環境問題への取り組みを行うため設立された「おおつ環境フォーラム」や福祉団体を中心とするボランティアセンターなど、分野毎に活動拠点が分散していることから、情報や交流のネットワークの一元化も課題となっている。

一方、各団体の活動が周囲に十分に認知されていない状況も見受けられることから、その

団体自身が情報発信していくことも大切となる。

● 市民参加推進研究会委員の意見紹介 -Part1-

- ネットワーク形成の問題点は、「私が」、「自分が」といった意識（思い込み）が働くことにある。
- 活動は、自分たちが楽しみながらできる方法、夢や遊びを入れていかないと長続きしない。おもしろいことをやりたいとの想いがベースにある。
- 行政の支援に頼り切っている団体は切り捨てていかないとダメだろうが、何とかしようと頑張っている団体や継続的なサポートが必要な団体には、支援が必要である。特に福祉やまちづくり系の分野は自前でお金を稼ぐことが重要となる。
- 活動に必要なお金を出すことが美徳とされるような「地域文化」、資金を提供することが良しとされる「企業文化」づくりが大切である。
- 従来の福祉分野のボランティアは高齢化し、新しい分野や部分を学んでも十分に吸収できない状況も見受けられる。
- 市民活動には、Non Profit という面だけでなく、New Public という面もあると感じる。

(3) 自治会・町内会とテーマ別市民活動組織の連携

自治会・町内会とテーマ別市民活動組織の連携を考えるにあたり、一個人として、地域における暮らし方とボランティア市民として活動する立場の両面から考えることが大切となる。

大津市では、場所によっては自治会活動が活発で地域の自治力が比較的良く残っているという状況がある反面、住民間のコミュニケーション不足や高齢化等により自治会組織が弱体化しているという状況も見られることから、自治会が特定のテーマを持ち、地域を越えて活動しているボランティア・NPOなどのテーマ別市民活動組織と接点を持ち、交流・連携することにより、相互の活性化が図れることとなる。

このため、両方が頑張れる仕組みをどのように作っていくのかが、今後の大津市におけるコミュニティ活動活性化の大きな課題となる。その意味でも、「まちづくり協議会（委員会）」が、連携を実践する場としての役割を担う可能性を持っていると思われる。

● 市民参加推進研究会委員の意見紹介 -Part2-

- 新旧コミュニティの関係を深めることで、旧在所の人、高齢者や女性等の「生活の知恵」、「ものづくりの技」、「商売人気質」など、まちの人が持っている「作り手としての力」、「商売人の力」などを活かすことができると思われる。
- 「風の人」と「土の人」との交流が必要。
- 自分を活かせる市民参加が、個人にとっては自己実現になり、町にとっては市民参加によるまちづくりにつながる。
- 子どもたちを「まちの将来の宝」として捉え、地域とともに育成していく過程で、コミュニティへの参画意識の育成やデモクラシー原則の徹底など、子どもも社会の一員であるということのコーディネートを考えなければならない。
- 自治会の関係で地域の学区社会福祉協議会に関わっていると、「ボランティアをしている」という意識はなく、恐らく自治会の続きという意識だと思う。

[参考文献]

- 大津市自治会40年のあゆみ（大津市自治連合会）
- 晴嵐史話（晴嵐コミュニティ推進委員会）
- 分権の時代にふさわしい滋賀ならではの新しい自治の形づくりー中間まとめー（身近な自治研究会・滋賀県）
- 参加型社会における市民と行政のパートナーシップの確立に向けて（大津市職員パートナーシップ推進プロジェクトチーム）
- 大津市市民参加推進研究会議事概要（第1回～第3回）

## 参考資料10 山形県大蔵村の乳歯う蝕予防事業「ヘルシーティース2001」

### 概要

われわれは大蔵村においてGreenらの開発したMIDORI理論（PRECEDE-PROCEED Model）を応用しながら地域診断、事業計画、実施、評価を行う乳歯う蝕予防事業「ヘルシーティース2001」を平成11年度より開始した。

分析対象は3～5歳児（138人）とその保護者である。対照として福岡市内3園の3～5歳児（350人）とその保護者を設定した。調査にはNPO法人ウェルビーイングが開発したFSPD3型と5型を一部改変した質問票を用いた。

住民代表らによる歯科保健推進協議会を設置後、MIDORI理論に対する研修会を行い、質問票の調査結果をもとに本事業の方向性を検討した。

その結果、「3歳児の一人平均う蝕本数を2001年度までに2本以下にする」「夕食後就寝までに甘い物を食べる者の割合を2000年度中に20%以下に引き下げる」「3か月毎にフッ素塗布を受けられるようにする」など、具体的事業内容が提示され、政策決定に住民参加が得られた。

### 良かった点

- ・乳幼児DMF/DMFTの明らかな改善が見られた
- ・地域住民の歯科保健に対する理解が急速に深まった
- ・地域が抱える問題点と望まれる対策が具体的に明示され、理解しやすい
- ・提案された事業内容が速やかに実行に移された  
（今までは提案されても実行までに至らず、挫折することもしばしばだった）
- ・多くの人的・経済的支援が得られた

### 問題点

- ・事業期間が短期（3か年計画）である  
（協議会の設置、地域診断、事業計画、実施、評価まで行うには無理がある）
- ・大規模なアンケート調査と専門機関による統計作業が必要
- ・事業期間終了後、村単独では現在の規模での事業の運営が難しい



# 大蔵村におけるヘルシーティース2001事業の取り組み

—ヘルスプロモーション、みどり理論を応用して—

大蔵村 保健婦長 設楽玲子

## 1. はじめに

大蔵村は、県内でもむし歯の多い村で、保健活動の中でもいろいろ対策はしてきましたがなかなか効果が見られず、平成11年度から3年計画で地域住民代表による歯科保健推進協議会を設置し、Greenらの開発したみどり理論（プリシード プロシード モデル）を応用しながら地域診断、事業計画、実施、評価を行うヘルシーティース2001事業（幼児むし歯予防事業）を実施してきました。

今までの行政主導から新しい健康づくりヘルスプロモーションの考えを重視して、住民主体になったの取り組みの経過を途中ではありますが、報告させていただきます。

## 2. 事業の経緯

### （1）歯科保健推進協議会の設置

- ・ 歯科保健の推進について企画、立案、評価を行う住民参加の場として設置
- ・ メンバー  
住民代表5名（母親代表3名、祖父母代表2名）  
関係団体代表5名（村議会議員代表、商工会代表、  
母子保健推進員、食生活改善推進員、  
在宅栄養士）  
保健医療関係者（歯科医師、歯科衛生士）  
教育関係者（保育士3名、養護教諭、村教育委員会）
- ・ 事務局  
山形県、最上保健所、大蔵村

### （2）研修会の開催

ヘルスプロモーション プリシード プロシードモデルについて歯科保健推進協議会、保健関係者を中心に研修会の開催  
（福岡予防歯科研究会講師2名）

### （3）アンケート調査の実施

2～5歳児の保護者に対してプリシード プロシードモデルを利用したアンケート調査の実施

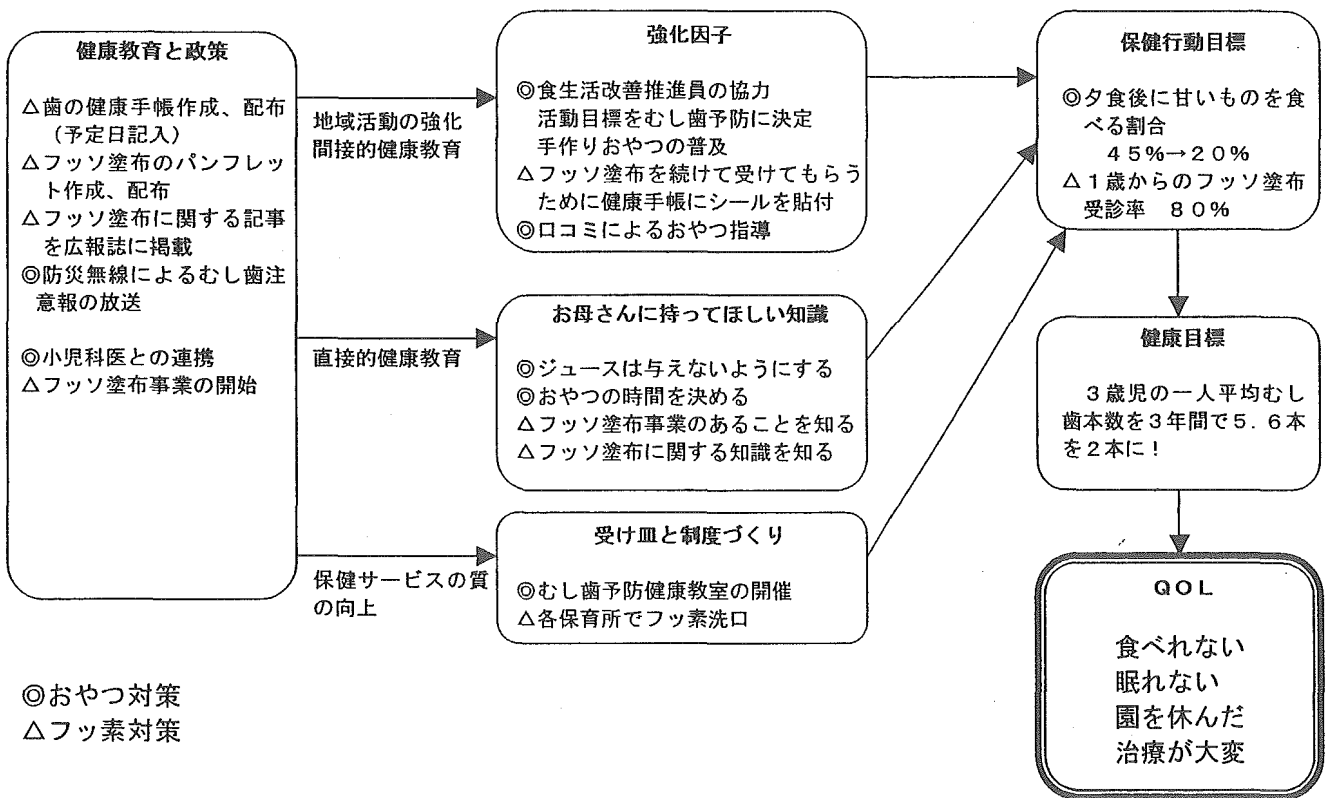
結果：おやつのお与え方の問題とフッ素利用が少ないことがあげられた。

#### (4) 歯科保健推進協議会での検討

歯科保健推進協議会の中で、アンケートの結果から地域の問題点の発見と具体的な対策を考え目標値を設定

- ①むし歯り患状況の目標値を設定
  - ②目標値を達成するために必要な改善すべき保健活動の優先順位とその目標値の決定
  - ③決定された行動に対する準備、実現、強化の抽出
  - ④要因を実現させるために必要なプラン策定
- ◎目標値
- ・ 3年間で3歳児のむし歯の数を1人平均 5.6本から2本にする
  - ・ 夕食後に甘いものを食べる割合を45%から20%にする
  - ・ 1～3歳児まで年3回以上フッ素塗布者を80%にする

### 3. 取組みの経緯



### 4. まとめ

ヘルスプロモーションの展開には住民が主体的に参加することが重要であり、みどり理論を学ぶ研修会に歯科保健推進協議会、保健関係者がスタートから同時に参加、研修を重ねたことにより、診断、行動まで共にできたと思われま。

ようやく村全域にもむし歯予防の大切さが浸透してきていると感じられるようになった。成果はまだ先のことだと思いが、継続していかなければと思います。

# みどり理論による 大蔵村アンケート解析表

## 3 行動・環境診断

- 帰宅後夕食までに甘いもの 87% 85%
- 夕食後就寝までに甘いもの 45% 29%
- ぐずついた時のお菓子 44% 30%
- おやつを手が届かない所に置く 31% 47%
- 年2回以上の定期健診受診 29% 54%
- F歯磨剤を選ぶ 74% 58%
- 仕上げ磨きをしている 83% 79%
- 1歳までに甘い味を覚えた 39% ---
- 2歳までに甘い味を覚えた 86% 86%
- 1.6歳までの断乳未完了 16% 12%
- 1.6歳以後も哺乳ビン使用 15% 13%

## 4 教育・組織診断

- ### 強化因子
- 近所や他の家族からおやつもらう 83% 63%
  - 定期検診をすすめられた 46% 61%
  - 定期検診受診には家族の協力が必要 81% 51%
- 仕上げ磨きに家族の協力がある  
54% 53%

- ### 準備因子
- フッ素はむし歯予防に効果があると思う 76% 83%
  - むし歯になりにくい甘い甘味料のおやつを選ぶ 42% 31%
  - むし歯予防には多少のお金をかけるべき 76% 74%
  - 断乳の遅れはむし歯の原因と知っている 86% (2,3歳)
  - 茶の間にお菓子はこちら前 3% ---
- 知っている言葉

- プラーク 70% 76%
- ミュータンス菌 42% 21%
- シーラント 17% 59%
- フッ素洗口 59% 85%
- つっこみ磨き 4% 6%
- フッ素塗布 84% 91%
- 六歳白歯 54% 61%
- 仕上げ磨き 90% 91%
- フロス (糸ようじ) 86% 92%
- フッ素スプレー (レド・ゴ) 83% 19%

\* 左が大蔵村、右が福岡の値

- …大蔵村の方が悪い状態
- …大蔵村の方が良い状態
- 印が無い…同じ状態
- (\*の数が多いほど差が開いている)
- \* < 0.05
- \*\* < 0.01
- \*\*\* < 0.001

## 1 社会診断

- 歯で困った事は？
- 食べられなかった 4% 0%
- 夜眠れなかった 1% 1%
- 園を休んだ 8% 0%
- 治療に時間かかった 17% 9%
- 治療にお金かかった 13% 11%
- 連れて行くの大変 22% 14%

## 2 疫学診断

むし歯平均本数

大蔵村	福岡
3歳 5.6	1.5
4歳 6.8	3.6
5歳 7.1	4.9

断乳の完了 (大蔵村)

1歳前	16%
1歳2ヶ月	28%
1歳3ヶ月	18%
1歳6ヶ月	23%
1.6以降	15%

## 属性・環境

対象者数	男	女	3歳	4歳	5歳	平均兄弟数
	57	81	45	37	56	2.46
出生順	第一子	35%	25%	25%	25%	2.03
	第二子	55%	40%	40%	40%	
	第三子以上	10%	35%	35%	35%	
同居	同居	17%	17%	17%	17%	17%
	曾祖母	2%	2%	2%	2%	2%
	祖母	82%	82%	82%	82%	82%
子供の世話	母	94%	94%	94%	94%	94%
	祖母	66%	66%	66%	66%	66%

**用語の認知率**

- ブラーク 77%
- ミュータンス菌 50%
- シーラント 30%
- フッ素洗口 \*75%
- つっこみ磨き 13%
- フッ素塗布 \*98%
- 六歳臼歯 41%
- フロス(糸ようじ) 93%
- フッ素スプレー(リビ-ゴ) 39%

**準備因子**

- おやつについて家族で話題にしている 67%
- フッ素はむし歯予防に効果があると思う 91%
- 定期健診をしてくれる歯科医院があれば子供を連れて行くと思う 93%
- むし歯予防に多少のお金はかけるべき 88%
- 断乳の遅れがむし歯の原因と知っている 84%

**強化因子**

- 近所や他の家族からおやつもらう 78%
- 定期検診受診には家族の協力が必要 97%

**実現因子**

- おやつの与え方指導あり 97%
- 断乳・断乳指導の経験あり 94%

**保健行動**

- 家庭で甘いおやつ3回以上 9%
- 家庭で甘いおやつ2回以上 46%
- 夕食までに甘いもの(4,5歳) \*70%
- 夕食後に甘いもの(4,5歳) \*24%
- おやつを手の届かない所に \*72%
- フッ素塗布受診経験 \*90%
- ジュースやスポーツ飲料を飲む \*17%
- 仕上げ磨きをしている 96%
- 1歳半までの断乳未完了 15%
- 1歳半以後も哺乳ビン 16%
- 哺乳瓶にジュース、スポーツ飲料 24%

**健康**

- 平均むし歯本数 2.61
- むし歯有病者率 61.3%

**QOL**

- 歯で困った事は? 2.8%
- 食べられなかった 0%
- 夜眠れなかった 0%
- 園を休んだ 0%
- 治療に時間がかかった 11.4%
- 治療にお金がかかった 1.4%
- 連れて行くの大変 15.7%

2001年 2000年 1999年  
 \* < 0.05  
 \*\* < 0.01  
 \*\*\* < 0.001  
 2001年と1999年で検定

大蔵村アンケート解析表  
 2-3歳児 (2001-1999年度)